

松ヶ浦小学校 (南九州市)

産卵できる海岸守ろう

ウミガメ保護活動

南九州市知覧町で唯一、校
区内に海岸が広がる松ヶ浦地
区では、昔から上陸・産卵に
やってくるウミガメの保護活
動に取り組んできました。私
たち松ヶ浦小学校5、6年生
も、総合的な学習の時間など
でウミガメの生態や海の環境
問題を調べたり、ウミガメの



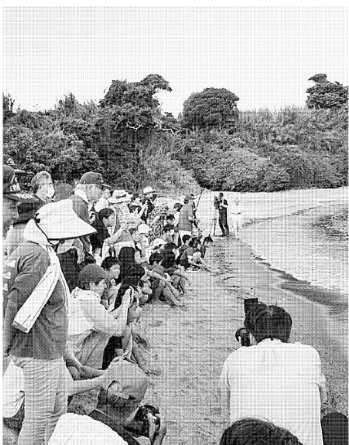
ウミガメ放流会で調べたことを発表する5、6年生の「ウミガメ博士」

してもらっています。

松ヶ浦小の保護活動は、30
年前の1994(平成6)年
から始まりました。子供たち
がウミガメ保護の体験を通じ
て海の生き物の命を大切に
し、故郷の環境を守ろうとす
る態度を養ってほしいとい
う願いがあったそうです。

ウミガメの中でも松ヶ浦の
海岸に産卵してくるのはアカウ
ミガメです。他のウミガメに
比べ、頭が大きくあごも大き
いのが特徴です。これはカニ
やイカ、魚類、海藻、クラゲ類
を餌としているからです。甲
羅の長さは約90センチもあり
ます。卵は約4センチ、小さ
な卵から大きく成長します。

しかし、大人のウミガメにな
れるのは5000匹に1匹くら
いの割合だといわれています。
ウミガメの産卵数は年々、
減ってきています。ウミガメ
が産卵するためには、それに
ふさわしい環境が必要です。
そのために松ヶ浦小で取り組
んでいるのが、海岸清掃活動



「大きくなって帰ってきてね」。声をかけながら海岸から赤ちゃんウミガメを放流



ウミガメ放流会の様子(左)閉校記念マスコットキャラクター「松かめく」



教育に
新聞を

この企画は、南日本新聞社の広告主でつくる南日本広友会の社会事業です。
子どもたちが発見し、取材・撮影した「地域の宝」を紹介します。

制作：南日本新聞社営業局

わたしたちふるさと発見隊

松ヶ浦小学校は、1872(明
治5)年に寺子屋より進歩した
稽古所として開設されました。
地域のみならずに支えられて卒
業生総数2923人を輩出し、
本年度で創立152周年を迎え
ましたが、来年3月で閉校とな
ることが決まっています。
しかし、今年春からは「全校

最後の1年 最高の年に



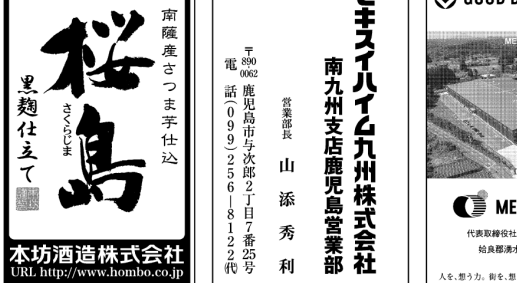
児童19人で最後の1年間を最
高の1年にしたい」と毎日、
明るく元気なあいさつ、海岸清
掃などのボランティア活動、朝
の体力づくりなどに取り組ん
でいます。
また、2009(平成21)年
からは指宿海上保安署と共同で
海岸漂着ごみ分類調査を実施し
ています。調査結果をもとに、
みんなど海をきれいにすること
を呼びかける取り組みは、環境
大臣賞や第十管区海上保安本部
長表彰を受けました。

ウミガメ保護をサポートして
くださる地域の方々の頼もしい
存在もあって、ふるさとの自然
環境を守ろうとする意識がみ
んなに着実に育っています。



わたしたちが取材しました

5年 植村力駆、河野風助、澤村
光輝、中村一翔、山中輝心▽6年
中渡瀬承太郎、中村望愛▽指導 中
禮尚子教諭、奥野裕樹校長



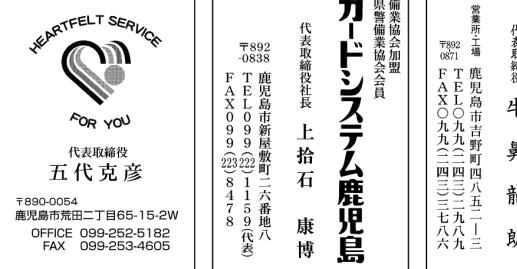
わたしたちが取材しました

5年 植村力駆、河野風助、澤村
光輝、中村一翔、山中輝心▽6年
中渡瀬承太郎、中村望愛▽指導 中
禮尚子教諭、奥野裕樹校長



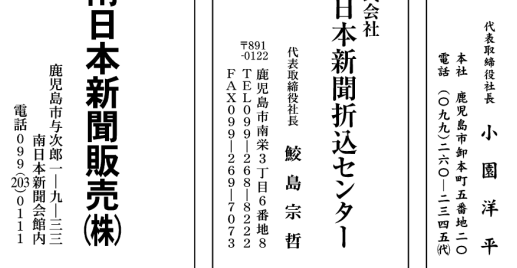
わたしたちが取材しました

5年 植村力駆、河野風助、澤村
光輝、中村一翔、山中輝心▽6年
中渡瀬承太郎、中村望愛▽指導 中
禮尚子教諭、奥野裕樹校長



わたしたちが取材しました

5年 植村力駆、河野風助、澤村
光輝、中村一翔、山中輝心▽6年
中渡瀬承太郎、中村望愛▽指導 中
禮尚子教諭、奥野裕樹校長



わたしたちが取材しました

5年 植村力駆、河野風助、澤村
光輝、中村一翔、山中輝心▽6年
中渡瀬承太郎、中村望愛▽指導 中
禮尚子教諭、奥野裕樹校長



わたしたちが取材しました

5年 植村力駆、河野風助、澤村
光輝、中村一翔、山中輝心▽6年
中渡瀬承太郎、中村望愛▽指導 中
禮尚子教諭、奥野裕樹校長